

- 志望校決定 (3 年)
- 赤本ルール
- 中間考査②
- リアルセンター申し込み(1,2 年)

吉田松陰と学問

化学科 野島 潔貴

吉田松陰 (1830~1859) という人がいた。彼は松下村塾という学校を今の山口県の萩に開き若者を育てた。彼のもとからは近代日本を支える多くの人物が出現した。久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋などそうそうたるメンバーである。松陰は奇跡の教育者と言われた。まさに異名の通りである。さて、彼自身は教育を自分のおじさんである、玉木文之進という人から受けた。とても厳しい人だったらしい。有名なエピソードがあるので紹介したいと思う。

ある時のこと、文之進が畑を耕している横で松陰が、孔子、孟子の聖賢の本を朗読していた。読み間違えると文之進が注意をして間違えを正し、また先に進む。さて、ある場所を朗読していたときのことで。松陰の頬にハエがとまった。彼はかゆかったものだから、ハエをはらい、頬を手で搔いた。するとである。その光景を見ていた文之進が、血相を変えて松陰のもとに走り松陰をぶっ飛ばした。そして、畑の中に倒れた松陰を殴った。なぜ文之進はこんなむごいことをしたのか。文之進の言うには「聖賢の本を読むとは、民を治めるためである。つまりは子供であろうとも聖賢の本を読むことは公のためなのである。そのような公務の時に、自分の頬がかゆいからといって搔くのは私情に流されたことになる。それは許せない。」ということらしい。

確かに、やりすぎのような気はするけど、ここで注目したいのは「聖賢の本を読むということは公である。」という考え方である。今で言えば「勉強は公のため」ということになると思うが、これは非常に大切な言葉のような気がする。

私たちは一人一人が自分にしかできない仕事を持って生まれてきたのだと思う。他の人にはできない、それでいて世のため人のために貢献できる大切な仕事を持っているのだと思う。そしてその仕事を全うすること、これこそが「公のため」という言葉に当たるところだと思う。

今、新宿高校のみなさんは、自分が背負っている自分にしかできない仕事を、将来、公のために行うために日々勉強しているのだと思う。逆に言うと、今しっかり勉強しなくては、将来自分に当てられた仕事をこなせなくなってしまう。だから、今が大事。みなさんの手で社会がよりよい方向に進めるようにしっかりと勉強してほしい。

○「志望校決定について」 3年

出願校を決めるのに役立つさまざまなデータ冊子が送られてきました。例えば次のようなデータが載っています。

- ・ 昨年の大学学部学科ごとの合否度数分布
- ・ 併願データ
- ・ 合格最低点・平均点
- ・ 入試日カレンダー、ほか

担任の先生が持っていますので、希望生徒は見せてもらってください。進路室にも置いてあります。

3年生は、10/7と11/6に受けた駿台ベネッセ模試のドッキング判定や、10/16と今度11/25に受ける河合模試のドッキング判定などを参考にし、最終的にはセンター試験の結果を踏まえて志望校を決めていきましょう。

センター試験関係では「確認はがき」の確認も終わり、あとは「受験票」の到着を待つばかり。受験票に試験会場が載っています。冬休み中などに下見に行くことをおすすめします。

○赤本ルール いったん返却を

現在、赤本や青本を借りている人は、12月の期末考査が始まるまでに一度返却して下さい。特に長期間借りたままになっている人は確実に返してください。試験期間中に返却の確認をします。

試験終了後、再び借りられますが、12月以降、貸出期間は1泊2日が原則です。いろんな人が借りたいと思っています。さっと借りてさっと返すようにしましょう。

赤本は、進路指導資料室、通称「赤本部屋」にもたくさんあります。こちらでも貸し出し可能です。廊下の貸出簿に記入して借りてください。

室内には大学毎の資料も置いてあります。こちらは持ち出し禁止ですが閲覧は可能です。3年生だけでなく、2年生も1年生も自由に入って利用できます。

<今年度購入本>

- ・ 東京大学(文)2冊・東京大学(理)2冊
- ・ 一橋大学(前)3冊・一橋大学(後)1冊
- ・ 東工大5冊・農工大1冊・北大(文)1冊

- ・ 北大(理)1冊・北大(後)1冊
 - ・ 東北大(文)1冊・東北大(理)1冊
 - ・ 首都大(文)1冊・首都大(理)1冊
 - ・ 横国大(文)1冊・横国大(理)1冊
 - ・ 京都大(文)1冊・京都大(理)1冊
 - ・ 名古屋大(文)1冊・名古屋大(理)1冊
 - ・ 大阪大(文)1冊・大阪大(理)1冊
 - ・ 神戸大(文)1冊・神戸大(理)1冊
 - ・ 九州大(文)1冊・九州大(理)1冊
 - ・ 筑波大(前)1冊・静岡大(前)1冊
 - ・ 東京外語大1冊・国際教養大1冊
 - ・ 東京学芸大1冊・東京医科歯科大1冊
 - ・ 千葉大(文)1冊・千葉大(理)1冊
 - ・ 埼玉大(文)1冊・埼玉大(理)1冊
 - ・ 茨城大(文)1冊・茨城大(理)1冊
 - ・ お茶の水女子大1冊・電気通信大1冊
 - ・ 海洋大1冊・早稲田大 各学部 各1冊
 - ・ 慶應義塾大 各学部 各1冊
 - ・ 上智大 計5冊・東京理科大 計6冊
 - ・ MARCH数冊ずつ・その他有名大数冊
- 全111冊購入済

○中間考査② 迫る

12月に入るとすぐに中間2考査が始まります。3年生は今回が最後の考査です。最終成績を左右する重要な考査ですのでしっかり準備してください。気持ちの上ではどうしても受験勉強が気になりますが、勉強に受験勉強も普通の勉強もありません。

1、2年生は来年3月にもう一度考査がありますが、もし不得意科目があるなら、今回の考査から早めに対策を立てましょう。前回の考査からは期間が短かったので、少しの復習が大きな成果につながります。逆に、これをおろそかにすると後悔することになります。

○リアルセンター申し込み 1、2年生

リアルセンターと言ったり、センター同日模試と言ったり、センターチャレンジと言ったり…呼び方はさまざまですが、要は2年生や1年生を対象に、センター試験の当日、または一週間遅れで、

センター試験と全く同じ問題を解き、どの程度できるかを確認するものです。

ねらいの一つは、本番のセンター試験を実感することで今後のモチベーションアップにつなげることです。1年後、あるいは2年後の自分の姿をイメージしながら取り組んでください。

もう一つのねらいは学習バランスの確認です。センター試験は出題の8割が教科書レベルの内容です。1年次、あるいは2年次で学習が終わっている科目なら8割の得点が可能なはず。どのくらい取れたかで仕上がり具合を確認しましょう。

2年生は全員受験です。1年生は希望者受験ですが、できるだけ挑戦して今の自分の実力を試してください。複数の予備校で実施されます。どれ

を受験するかなど、具体的な申し込み方法については学年の先生から案内がありますので、それにしたがってください。

【今後の予定】

- 河合センタープレ 11/25日(3年) 外会場
- 後期中間②考査 12/3~6(3年は12/7まで)
- 修学旅行・沖縄(2年) 12月10~12日
- センター試験受験票 12月中旬
- ♪合唱コン 12/18火(1,2年)
- 全校集会 12/25火
- 冬休み始 12/26水
- 特別考査 1/8火(1,2年)

先輩からの言葉

寧ろ鶏口と為るも牛後と為ること無かれ

フジテコム株式会社 企画開発チーム 久保田兼士(新25回生)

新宿高校を卒業してから45年がたった。いま私は産業用電子機器のメーカーで回路設計の技術者として働いている。小学生の時に学習雑誌の付録の鉱石ラジオを作ったのがきっかけで電子工作に興味を持ち、以後ラジオや無線器に明け暮れていた。将来は回路技術者になるのだと、高校入学の頃には既に決めていた様に思う。

高校の授業も理系科目は得意だったが文系科目には興味がわかず、成績も推して知るべし。英語の先生には「大学は諦めて、就職口を探せ。」と言われる始末だったが、工科系の単科大学にもぐり込んだ。就職はオイルショック後の不況で各企業が技術者の求人を控えた時期に当たった。専門外の道へ進む者も多かったが、企業規模などは無視して技術職として雇ってくれる企業を探した。

就職したのは産業用の電子機器を製造するメーカーで、社員60人ほどの小企業だった。水道管の漏水を調査する装置や埋設物の探査装置など特殊な機器を専業としているため、一般での知名度は無いに等しい。入社して半年ほどして初めて設計を任せられた。大企業とは違い技術者が少なく回路設計の担当は私一人だったが、お陰で自分のペースで仕事を進めることができた。予定の開発期間はオーバーしてしまっただが大きなトラブルもなく完成させ、国内外の市場でも評判も良く、その後十数年間生産された。

その後も多くの機器の開発に携わる一方で原理や取扱い説明、メンテナンスの指導などで海外の代理店や顧客を訪問する機会が増えた。訪れた国は二十数ヶ国、その多くが発展途上国である。

強く印象に残っているのは地雷探知機の開発を行った時のことである。建設用重機を応用して地雷除去装置を開発している企業から、重機に取り付ける探知機を開発を依頼されたのが発端で、開発の終盤にはアフガニスタンで性能試験を行うことになった。2004年の事である。

試験は現地のスタッフと共に行なうため、通訳として現地の医学生を雇った。彼は温厚な青年で仕事以外でも私の拙い英語に付き合ってくれて雑談してくれた。

「全ては神の意志に基づく。」彼が教えてくれたイスラム教の基本である。「平和を望むが、侵略者と戦うのも神の意志だ。ジハードは神に全てを捧げることだが、神は人殺しを望まない。」と付け加えた。「神が必要とするなら私もテロをやるよ。」とも言っていたが、私には彼が爆弾を身に着けている姿は想像できなかった。

医師を志した理由を尋ねると、「ソ連のアフガニスタン侵攻で両親がソ連兵に撃たれたが、当時の自分には助ける事が出来なかったからだ。」との返事であった。悲惨な体験であるが、医師となり人々の命を救うことが神から与えられた使命である、と考えているようにも思えた。

アフガニスタンで試験した地雷除去機はその後も改良を続け、今では100台以上が世界中の地雷原で活躍している。一方私が手掛けた地雷探知機は一台がニカラグアで地雷除去に使われていたが、数年前に除去を完了し引退している。

地雷除去の関係で訪れた国々で見聞きしたのは、大国の思惑で戦場となり危険と隣り合わせに暮らすことを余儀なくされた人々の姿であった。

残念ながら地雷除去に関しては私が貢献できたことは僅かであったが、本業のライフラインの維持管理分野では私が開発した機器が世界各地で活用されている。

数年前にカナダの代理店の社長が来日した。彼とは旧知の仲だが私が定年間近と聞いて私の席まで飛んできた。彼が差し出したスマホに映っていたのは私が入社して初めて設計した探査機の動画で、聞けばネットオークションで落札したとか。

「40年近く前の機械だがまだちゃんと動く。見てくれこのアナログメーターの滑らかな動きを。これに出会ったから俺は会社を興した。だから御前は引退なんかしないで、これからも俺のために良い機械を作るのだ。」無茶苦茶な理屈ではあるが、技術屋冥利に尽きる一言だった。

海外で活躍したいと思う人がいるなら、まず自分の専門分野を極めることを勧めたい。現地の人と触れ合い理解しあうためのツールとして語学力は必要ではあるが、絶対とは思えない。それよりも自分がその分野のエキスパートとなることの方が重要だと感じる。

私の場合、専門メーカーが全世界に10社もないような狭い業界の中ではあるが技術者として評価されたことが幸いした様である。評価され信頼を得ることで活躍の場が広がり、それが海外にまで及んだと思っている。

「寧為鶏口、無為牛後」高校時代に習った漢詩の一節を思い出す。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)